



細菌性肺炎について

肺炎は、原因菌から大きく「細菌性肺炎」と、そうでない肺炎に分けられます。これらは、治療法が大きく異なるため、迅速診断が必要です。

細菌性肺炎の原因菌の中でも肺炎球菌と、レジオネラ感染症は、尿検査で診断できます。



肺炎球菌性感染症 と

レジオネラ感染症 についての特徴

	肺炎球菌	レジオネラ
特徴	肺炎の原因菌の中で最も多く、約20%～40%が肺炎球菌です 放置すると、髄膜炎や菌血症などの重篤な状態を起こします	肺炎球菌・インフルエンザに続いて、見逃さないのがレジオネラによる肺炎です 早期に重篤化しやすく致死率が高いとても怖い肺炎です
感染源・感染ルート	飛沫・接触感染 小児～高齢者まで伝播します	循環式の温泉・加湿器の水・プール・ホテルのシャワーヘッドなど水を介して感染します 乳幼児や高齢者など抵抗力が低下した人が感染しやすいのですが、人から人への感染はしません
検査の方法	尿で検査 ・尿で検査できるので痛みや危険を伴いません ・検査結果は15分でわかります	



ここがポイントです！

不適切な治療を行うと、菌の耐性化をおこしやすくなります。
耐性菌をつくらないためにも、早期の診断を！